

IV—13 欧米人による盛岡の景観の分類と評価について

岩手大学工学部 正会員 安藤 昭  
 岩手大学工学部 正会員 赤谷 隆一  
 岩手大学工学部 ○学生員 宇土沢猛雄

1 はじめに

城下町起源の都市「盛岡」は杜の都といわれ、山と川をつくりだす四季折々の美しい風景をもつまちである。またこのまちにも東北新幹線・東北自動車道などの近代化の波が押し寄せ、既存市街地にはマンションをはじめとする高層ビルの建設、盛岡南部における盛南地区の開発など新しいまち並みが形成されつつある。このように歴史的なまち並みのなかや周辺に近代的な新しいまち並みがふえていく中で、このまちの持つ個性が問われてきている。

本研究は、岩手県を訪れ滞在している欧米人による、国際的視点からの、盛岡の景観の分類と評価を行い、盛岡の持つ個性を抽出しようとするものである。住民を通しての個性の抽出も重要であるが、わが国とは異なる風土・文化のもとで育ち、はっきり評価を下す欧米人によつての個性を抽出することは、自らの個性を一層鮮明にするという点において重要であると思われる。

2 調査・分析方法

実験に用いる試料は、昭和60年度岩手大学工学部土木工学科土木計画研究室佐竹克也君による「東北新幹線開通後の盛岡の景観の分類と評価」の研究で使用した写真と同じ地点・アングルで撮影した写真をもとに、ここ数年でふえた新しい景観の写真を加えた約480枚の中から、盛岡を代表する景観を選びだし、91枚の写真を用いるものとした。

被験者は岩手県に滞在する欧米人で男12人・女13人の計25人、在住年数は1～5年間である（表-1・1、1・2）。

本実験は、調査員が被験者本人に会い調査をする面接調査法で行なった。まず上述の写真を用いて似ていると思われる景観どうしのグループを作ってもらふ。なお、分類数および分類基準はまったく被験者の考えに任せる。続いて、写真一枚一枚について、非常に好きから非常に嫌いまで5段階で評価をしてもらふ。その結果からクラスター分析により景観の類型化を行い、情報理論および系列カテゴリー法によつて各景観パターンの評価を行った。

3 解析結果および考察

平均分類数は17分類となり、類型化されなかつた写真を1分類と考え、パーソナル景観として加え、18分類とした（表-2）。「公共施設」としてレクリエーション施設・文化教育施設・駅舎が1分類、「河川」として郊外河川と都市河川が1分類となっている。それに対し「岩手山を借景とする湖水および河川」「田園景観」「公園」・寺町の街路が、独自の性格をもつものとして独立している。「公共施設」は、中・高層建築物・歴史的建築物が別に分類されていることから、低層近代建築物として分類されているとも考えられる。また「学校」は石づくりの「歴史的建築物」に対し木造の歴史的建築物として分類されているとも考えられる。

景観評価は図-1に示されるように好き・嫌いが明瞭に表された結果となった。「岩手山を借景とする湖

表-1・1 被験者の個人属性  
(出身国)

	男	女	計
アメリカ	7	9	16
イギリス	1	2	3
カナダ	3	1	4
オーストラリア	1	0	1
ニュージーランド	0	1	1
計	12	13	25

表-1・2 被験者の個人属性  
(在住年数)

	男	女	計
1年	9	6	15
2年	1	6	7
3年	1	0	1
4年	1	0	1
5年	0	1	1
計	12	13	25

水および河川「河川」「公園」などの自然景観と、「社寺」の評価が高く、街路・「橋梁」「中・高層建築物」「教会」の評価が低い。「社寺」「中・高層建築物」は日本人の結果に比べ好き・嫌いが明瞭となった。緑・水辺のある景観や、周囲の山なみを借景とした景観など、有機的要素の入った景観が高いのに対し、コンクリート・アスファルトを主とする無機的景観が低い。「社寺」は日本的なものという要素によって評価を高くしているものと考えられる。「公共施設」は評価順位が10位と低いほうだが、日本の様式を採用した公共建築物は評価が高く、それ以外の公共建築物によって順位が下がったと考えられる。

#### 4 まとめ

解析結果より次のことが明らかになった。

- 1) 盛岡の景観の評価を高めているのは自然景観であり、逆に低くめているのは人工的景観である。
- 2) 岩手山は盛岡のひとつの個性であり、岩手山を借景としていることによって風景がまとまり評価が高くなっている。
- 3) 社寺や日本の様式の公共施設など、日本的なものに対する評価が高い。
- 4) ビルディングは、近代的ビルディングより歴史的建築物の評価が高い。また中・高層建築物の評価が著しく低い。
- 5) 盛岡市民に比べ評価構造がきわめて明瞭である。

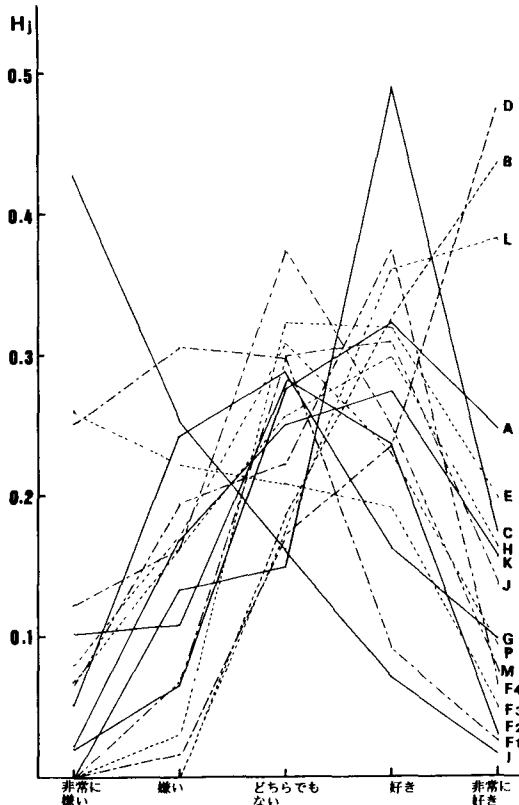


図-1 景観の選好評価値

表-3 調査解析結果

区分	景観パターン	記号	枚数	視 点 場	対 象 景	評価値	評価順位
生物的環境	河川	A	12	河岸・橋梁	河川	0.6854	4
	岩手山を借景とする湖水および河川	B	3	湖岸・橋梁	岩手山・湖	1.1401	1
	田園景観	C	3	道路	田園	0.6602	5
	公園	D	3	公園内	公園	1.1300	2
	都市俯瞰景観	E	3	展望台	市街	0.6436	6
インフラ機能空間	主要幹線・幹線・区画街路(1)	F1	8	街路	商店街	-0.5170	16
	主要幹線・幹線・区画街路(2)	F2	9	街路	住宅地	-0.1565	14
	主要幹線・幹線・区画街路(3)	F3	5	街路	主要幹線街路	-0.3371	15
	主要幹線・幹線・区画街路(3)	F4	2	街路	寺・街路	0.1959	10
	橋梁	G	3	河岸	橋梁	0.0557	12
	公共施設	H	10	街路および周辺	公共施設	0.3364	9
	中・高層建築物	I	7	街路	中・高層建築物	-0.7985	17
文化現象としての景観	学校	J	3	街路および周辺	学校	0.4818	7
	歴史的洋風建築物	K	5	街路	歴史的洋風建築物	0.3854	8
	社寺	L	5	社寺周辺	社寺建築物	1.0644	3
	教会	M	4	街路および周辺	教会	0.0311	13
	パーソナル景観	P	4	—	—	0.1237	11